

名前 菊知充

専門分野 精神科 医師

会議での役割 情報提供研究者



A班の提言へのコメント・意見



「何をしたらいいかわからない」社会という表現は現実的であり、今の社会の状態だと思えます。

「何をすると良いのか」をいかに見つけ出して実践していくかを、考えていく事そのものがテーマだと思えます。



B班の提言へのコメント・意見



自閉症の個々の特性を理解して、尊重していく事は、そのまま社会全体の中で、自閉症にかかわらず、個々を尊重する事につながると感じております。



C班の提言へのコメント・意見



社会的自立を支えるフレームワークとしての発達障害支援特区を、金沢の特徴を出しながら進めていく事に賛成します。
フレームを作って、とにかく進めてみないと、先に進まないと思います。



D班の提言へのコメント・意見



Dも、Cと同様で、特区という形で予算わくを獲得して、モデル事業を進める事が大事だと思います。



E班の提言へのコメント・意見



自閉症は個性なのか病気なのか？何であるのか。結局は、社会的に決められている事は確かだと思う。今の社会システムの中では不適應を生じていても、未来の電子ネット社会においては、有利な立場になる可能性もある。今のいわゆる“健常である事”が、500年後には少数派になって“コミュニケーション過剰症”と診断されるかもしれない。

話はかわりますが、教育現場も、病院も、あらゆる公的機関でマニュアル化がすすみ、システムが一つ増す対に、提出書類がふえていき、現場のエネルギーが低下している事が問題だと思えます。現場では個々の対応が大事という意見はもっともと思えます。マニュアル化は、それに逆行する流れであり、個々の対応能力、および考える力を低下させる問題があると思えます。



F班の提言へのコメント・意見



この提言は、もっともチャレンジ性を備えた勇気ある提言だと感じた。このシステムを実現するためには、事業の失敗を完全にカバーし、さらに失敗の数だけ評価をもらえる様な構造が必要である。企業負担と言う形式ではなく、政府のレベルでの事業化が必要だと思う。

上記は、トライandエラーの方法であるが、その前に、現時点で“ひそか”に社会で適応（あるいは成功）しているASD（診断されていないケースを含む）を調査し、データベース化し、多様なASDのどの様な要素が、どの様な仕事様式に有利に作用するのかを明らかにして、その上で事業化の戦略をねる必要があると思います。「Project:かくれASD成功者をさがせ」で社会の中のASDのPositiveな面を明らかにすることも大事かと思います。